ふりがな　　かとう　けいき

氏　名　　**加藤　圭木**

## 1. 学歴

2008 年 3 月　東京学芸大学教育学部国際理解教育課程日本研究専攻卒業
2008 年 4 月　一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻修士課程入学
2010 年 3 月　一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻修士課程修了
2010 年 4 月　一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士後期課程進学
2014 年 3 月　一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士後期課程修了

## 2. 職歴・研究歴

2012 年 4 月　日本学術振興会特別研究員（DC2）
2014 年 4 月　一橋大学大学院社会学研究科特任講師（ジュニアフェロー）
2015 年 4 月　一橋大学大学院社会学研究科専任講師
2018 年 4 月　一橋大学大学院社会学研究科准教授

## 3. 学内教育活動

### （A）主な担当講義名

**（a）学部学生向け**

アジア社会史総論、アジア社会史特論、社会史史料講読、社会研究入門ゼミナール

**（b）大学院**

アジア社会史Ⅱ、社会科学研究の基礎、教育技法の実践

### （B）ゼミナール

学部後期、大学院

## 4. 主な研究テーマ

１）近代朝鮮東北部の社会変容、２）植民地期朝鮮の地域社会史、３）戦争・植民地支配に関する日本の歴史認識・歴史教育

## 5. 研究活動

### A．業績

**（a）著書・編著**

・方法論懇話会編『療法としての歴史〈知〉―いまを診る』森話社、2020 年（分担執筆：「日本人は〈アジア諸国から不当に攻撃〉されているのか―〈反日〉という妄想」80～95 頁）
・内海愛子ほか著『日韓の歴史問題をどう読み解くか』新日本出版社、2020 年（分担執筆：「問われているのは日本の植民地支配への反省」、96～124 頁）
・岡本有佳・加藤圭木編著『だれが日韓「対立」をつくったのか―徴用工、「慰安婦」、そしてメディア』大月書

店、2019 年（分担執筆：3〜6 頁、12〜17 頁、72〜87 頁、136〜147 頁）
・菅豊・北條勝貴編『パブリック・ヒストリー入門―開かれた歴史学への挑戦』勉誠出版、2019 年(分担執筆：「朝鮮・日本の歴史認識と市民的協働」、267〜283 頁）
・ 3.1 운동 100 주년기획위원회編『3.1 운동 100 년. 4: 공간과 사회（3.1 운동 100 주년 총서）』휴머니스트、2019 年（分担執筆：「한국 동북부의 공간 변용과 3·1 운동」）
・日本植民地研究会編『日本植民地研究の論点』岩波書店、2018 年（分担執筆：「被支配者の主体性」、22〜31 頁）
・日本史研究会・歴史科学協議会・歴史学研究会・歴史教育者協議会編『創られた明治、創られる明治―「明治 150 年」が問いかけるもの』岩波書店、2018 年（分担執筆：「「明治 150 年」と朝鮮」、113〜130 頁）
・日本軍「慰安婦」問題 web サイト制作委員会編／金富子・板垣竜太責任編『増補版　朝鮮人「慰安婦」と植民地支配責任』御茶の水書房、 2018 年（分担部分：「当時、「朝鮮人は日本人」だったから平等だった？」）
・歴史学研究会編『第 4 次　現代歴史学の成果と課題３　歴史実践の現在』績文堂、2017 年（分担執筆：「「慰安婦」問題をめぐる法廷闘争」、29〜39 頁）
・東京歴史科学研究会編『歴史を学ぶ人々のために–現在をどう生きるか–』岩波書店、2017 年（分担執筆：「日本の朝鮮侵略史と朝鮮人の主体性」、109〜126 頁）
・加藤圭木『植民地期朝鮮の地域変容―日本の大陸進出と咸鏡北道』吉川弘文館、2017 年
・杉並歴史を語り合う会・歴史科学協議会編『隣国の肖像–日朝相互認識の歴史』大月書店、2016 年（分担執筆：「朝鮮民族運動家の日本観― 一九一〇〜二〇年代を中心に」、154〜169 頁）
・이타가키 류타、 김부자編『'위안부' 문제와 식민지 지배 책임』（삶창、2016 年 （分担部分：「그때는 조선인도 일본인이었으니 평등했다?」、103〜109 頁）
・大学の歴史教育を考える会編『わかる・身につく歴史学の学び方』大月書店、2016 年（分担執筆：「卒論と向き合った日々」）
・日本軍「慰安婦」問題 web サイト制作委員会編／金富子・板垣竜太責任編『朝鮮人「慰安婦」と植民地支配責任』御茶の水書房、 2015 年（分担部分：「当時、「朝鮮人は日本人」だったから平等だった？」、65〜69 頁）
・君島和彦編『近代の日本と朝鮮–「された側」からの視座–』東京堂出版、2014 年（分担執筆：「朝鮮東北部・雄基港における交易の変容―一九世紀後半から一九二〇年代まで–」、121〜147 頁）
・子どもと教科書全国ネット 21 編『中学歴史・公民　育鵬社教科書をどう読むか』（共著）高文研、 2012 年
・木村茂光・樋口州男編『新編　史料でたどる日本史事典』、 東京堂出版、 2012 年 （執筆項目：韓国併合、満州事変）

**（b）論文**

・「日韓における『反日種族主義』現象」『人権と生活』第 51 号、2020 年 11 月、6〜15 頁
・「歴史に学び朝鮮半島との平和を築く」『歴史地理教育』第 910 号、2020 年 6 月、54〜61 頁
・「問われる植民地支配認識―変貌する朝鮮半島と日本」『歴史評論』第 842 号、2020 年 6 月、5〜17 頁
・「問われているのは日本の植民地支配への反省」『前衛』第 980 号、2019 年 11 月、66〜84 頁
・「豆満江の境界史―朝鮮植民地支配との関連から―」『史潮』第 86 号、2019 年 12 月、76〜93 頁
・「朝鮮植民地支配と国境地帯―会寧を中心に」『史海』第 66 号、2019 年 7 月、19〜34 頁
・「３・１独立運動の歴史的、今日的意義を探る」『週刊金曜日』第 27 巻第 2 号、2019 年 2 月
・「三・一運動 100 年から何を学ぶか」『歴史地理教育』第 891 号、2019 年 3 月、4〜9 頁
・「植民地期朝鮮におけるイワシ漁業・加工業と統制政策（1923〜1931）」『日韓相互認識』第 9 号、2019 年 2 月、1〜39 頁
・「歴史認識・歴史教育をめぐる同時代史―日本軍「慰安婦」問題に取り組んだ経験から」大阪歴史科学協議会

編『歴史科学』 第234号、2018年10月、20〜30頁
・「近代日本と植民地の公害」『環境思想・教育研究』 第11号、2018年9月、8〜13頁
・「吉見裁判とは何か」『歴史評論』第814号、2018年2月、52〜66頁
・「大学における日本軍「慰安婦」問題の授業実践」歴史科学協議会編『歴史評論』 第809号、2017年9月、82〜95頁
・「1920〜30年代朝鮮における地域社会の変容と有力者・社会運動–咸鏡北道雄基を対象として–」『商学論纂（吉見義明教授古稀記念論文集）』第58巻第5・6号、2017年3月、29〜61頁
・「日露戦争下における朝鮮東北部の「軍政」」『一橋社会科学』 第８巻、2016年10月、37〜56頁
・「歴史修正主義と教科書問題—2015年採択の中学校社会科教科書をめぐって—」『歴史評論』 第791号、2016年3月、57〜69頁
・「被害者を置き去りにした日本軍「慰安婦」論—朴裕河『帝国の慰安婦』批判」『歴史地理教育』 第845号、2016年2月、58〜63頁
・「朝鮮東北部の社会変容と植民地支配–清津港の建設をめぐって–」『日韓相互認識』第6号、2015年9月、1〜32頁
・「植民地期の歴史を朝鮮史として書くこと」『アジア民衆史研究』 第20号、2015年5月、53〜62頁
・「朝鮮植民地支配と公害—戦時期の黄海道鳳山郡を中心に—」『史海』 第61号、2014年6月、71〜82頁
・「日露戦争以降の朝鮮における軍事基地建設と地域—永興湾を対象として—」『一橋社会科学』 第5巻、2013年11月、29〜43頁
・「日露戦争初期の朝鮮東北部—日本の介入をめぐって—」『アジア民衆史研究』 第18号、2013年10月、23〜35頁
・「歴史教育で災害史をとりあげる視点」『人民の歴史学』第197号、2013年9月、41〜44頁
・「植民地期朝鮮における港湾「開発」と漁村—一九三〇年代の咸北羅津—」『人民の歴史学』第190号、2011年12月、24〜35頁
・「一九三〇年代朝鮮における港湾都市羅津の「開発」と地域有力者」『朝鮮史研究会論文集』第49号、 2011年10月、205〜233頁
・「植民地期朝鮮における「労働者移動紹介事業」（1934〜1936）ー朝鮮内労働力動員政策前史ー」『日本植民地研究』 第23号、2011年6月、１〜17頁
・「歴史教科書のなかの沖縄現代史」『人民の歴史学』 第186号、2010年12月、25〜29頁
・「植民地期朝鮮における「市街地計画」ー咸鏡北道羅津の事例を中心にー」『朝鮮学報』 第217号、2010年10月、39〜70頁

（c）翻訳
・金孝淳、石坂浩一監訳『祖国が棄てた人びと—在日韓国人留学生スパイ事件の記録』明石書店、2018 年（翻訳：「第3章　前史–進歩党事件と民族日報事件」）
・鄭在貞「歴史認識の転向と分岐ー敗戦＝解放前後の映画と教科書から見る韓国と日本のアジア太平洋戦争ー」君島和彦編『歴史教育から「社会科」へー現場からの問いー』東京堂出版、2011年

（d）その他
・「コメント（関東大震災95周年朝鮮人虐殺犠牲者追悼シンポジウム「関東大震災時の朝鮮人大虐殺と植民地支配責任」第2セッション：虐殺の構造と植民地支配責任」）」『朝鮮大学校学報』 第29号、 朝鮮大学校朝鮮問題研究センター、 2019年
・「書評　吉見義明『買春する帝国—日本軍「慰安婦」問題の基底』（岩波書店、2019年）」『図書新聞』第3423

号、2019 年 11 月 16 日
・「書評　鄭栄桓著『忘却のための「和解」―『帝国の慰安婦』と日本の責任』（世織書房、2016 年）」『図書新聞』 第 3285 号、 2017 年 1 月 1 日
・「吉見裁判とは、その争点は」教育科学研究会編『教育』 第 833 号、2015 年 6 月、51〜52 頁
・「文献紹介　「戦争と女性への暴力」リサーチ・アクションセンター編／西野留美子・金富子・小野沢あかね責任編集≈著『「慰安婦」バッシングを超えて−「河野談話」と日本の責任』 （大月書店、 2013.6）」『同時代史研究』第 7 号、2014 年
・「2011 年の歴史学界　回顧と展望　東アジア（朝鮮ー近現代）」『史学雑誌』 第 121 巻第 5 号、2012 年 6 年、255〜258 頁
・「私の卒業論文・修士論文」『歴史評論』第 745 号、2012 年、75〜77 頁
・「「韓国人遺族との出会いから一〇〇年を考える証言集会」の記録―金錦順氏、南良江氏、金蓉子氏の証言」（秋岡あやとの共編）『日韓相互認識』第 4 号、2011 年 3 月、109〜125 頁
・「文献紹介　平壌第三公立中学校総同窓会校史編纂委員会編『平壌三中 学窓の追遠史−朝鮮植民地時代末期の中学校の教育記録』」『人民の歴史学』第 184 号、2010 年、15〜17 頁

## B．本研究科着任後の研究活動（着任 2015 年）

### （a）国内外学会発表

＊「問われる植民地支配認識―変貌する朝鮮半島と日本」歴史科学協議会第 53 回大会、2019 年 11 月、明治大学
・「북한도시의 현황과 식민지시기 지역사연구의 과제」、<개발반>모임、2019 年 7 月、고려대학교
・「コメント　虐殺の歴史、抵抗の歴史と向き合う」、関東大震災 95 周年朝鮮人虐殺犠牲者追悼シンポジウム「関東大震災時の朝鮮人大虐殺と植民地支配責任」、2018 年 9 月、 朝鮮大学校
＊「朝鮮植民地支配と国境地帯―会寧の変容を中心に―」、 東京学芸大学史学会 2018 年度大会、2018 年 4 月、東京学芸大学
・「日本軍「慰安婦」問題を社会で共有するために―『「慰安婦」問題と未来への責任』から考える―」、 『「慰安婦」問題と未来への責任』刊行記念公開書評会、2018 年 2 月、 津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス
＊「「歴史認識」・歴史教育をめぐる同時代史を考える―「慰安婦」問題に取り組んだ経験から―」、大阪歴史科学協議会 1 月例会、2018 年 1 月、クレオ大阪西
＊「식민지시기 조선의 지역변용–일본의 대륙진출과」、 고려대학교 아세아문제연구소 현대일본센터・BK 플러스 한국사학미래인재양성사업단 초청세미나、2017 年 9 月、고려대학교 아세아문제연구소 3 층 대회의실
・「日本軍「慰安婦」問題を大学でどう教えるか」岐路に立つグローバリゼーションと歴史実践、2017 年 3 月、一橋大学
＊「조선식민지지배와 해항도시: 지역사연구의 가능성」、 동아시아 해항도시 국제학술회의 <해항도시、 축적된 과거와 미래의 발굴>、2016 年 11 月、인하대학교 개교 60 주년 기념관
＊「政治主体をどう論じるのか」、 日本植民地研究会大会、2016 年 7 月、立教大学
＊「植民地主義の暴力への想像力を鍛え直すために―歴史意識の現在―」、 唯物論研究協会第 38 回大会　シンポジウム、2015 年 10 月、群馬大学荒牧キャンパス

### （b）国内研究プロジェクト

・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 C)「朝鮮半島の植民地遊廓の形成・展開・変容〜解放後韓国へ

の連続／非連続に注目して～」（研究分担者）、2020 年 4 月～2024 年 3 月

・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 A）「「日韓相互認識」研究の新展開」（研究分担者）、2018 年 4 月～2023 年 3 月

・日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究 B）「帝国経験のリアリティを伝える歴史研究・教育—開発主義と地域社会を軸に—」（研究代表者）、2018 年 4 月～2021 年 3 月

・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 B）「社会変容と民衆暴力」（研究分担者）、2017 年 4 月～2021 年 3 月

・日本学術振興会科学研究費補助金（若手研究 B）「朝鮮植民地支配と公害」（研究代表者）、2015 年 4 月～2018 年 3 月

・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 A）「「日韓相互認識」研究の深化・発展のために—東アジア情勢のなかで—」（研究分担者）、2014 年 4 月～2019 年 3 月

・日本学術振興会科学研究費補助金（特別研究員奨励費）「植民地期朝鮮における港湾都市開発と地域社会」（研究代表者）、2012 年 4 月～2014 年 3 月

## 7. 学外活動

### （a）他大学非常勤講師など

2018 年 9 月　早稲田大学文化構想学部非常勤講師（2019 年 3 月まで）

2019 年 9 月　同上（2020 年 3 月まで）

### （b）所属学会および学術活動

東京歴史科学研究会（委員：2008 年 4 月～現在、事務局長：2014 年 4 月～2016 年 4 月）

朝鮮史研究会（幹事：2013 年 1 月～現在、編集委員：2019 年 10 月～現在）

歴史科学協議会（理事：2014 年 11 月～2016 年 11 月、監事：2018 年 12 月～2020 年 11 月）

日本植民地研究会（研究企画委員：2013 年 7 月～2017 年 6 月、編集委員：2017 年 7 月～2021 年 6 月）

歴史学研究会

歴史教育者協議会

東京学芸大学史学会

朝鮮学会

歴史学会

### （c）公開講座・市民講座

・「地域社会のなかの在朝日本人—朝鮮東北部の「工業化」・軍事化との関連から—」、 大阪経済法科大学　市民アカデミア 2018　連続講座Ⅲ　日本人と植民地—在朝日本人、2018 年 10 月、大阪経済法大学東京麻布台セミナーハウス

・「日本・朝鮮半島の「共生」と歴史認識—3・1 独立運動 100 年（2019 年）をどう迎えるか—」、一橋大学社会学部連続市民講座 2018「共生とは何か？ —繋がる社会、切り離される世界—」、2018 年 6 月、 一橋大学兼松講堂

「朝鮮人と日本、日本人と朝鮮　第二回　チッソの収奪経営と日本人の植民地経験」、 国立市公民館近現代史講座、2017 年 12 月、国立市公民館

・「朝鮮人と日本、日本人と朝鮮 第一回　朝鮮人による日本の侵略批判と植民地支配責任論」、 国立市公民館近現代史講座、2017 年 11 月、国立市公民館

「歴史を学ぶ人々のために―日本の朝鮮侵略史と朝鮮人の主体性」、 明治大学リバティアカデミー、2017 年 10 月、明治大学アカデミーコモン

「朝鮮植民地支配を考える−日本の侵略と朝鮮人の主体性−（2） 地域から構想する朝鮮近代史」、 国立市公民館近現代史講座、2017 年 2 月、国立市公民館

・「朝鮮植民地支配を考える−日本の侵略と朝鮮人の主体性−（１） 「明治時代」は朝鮮にとってどんな時代だったか？」、国立市公民館近現代史講座、2017 年 2 月、国立市公民館

・「朝鮮植民地支配と地域社会−軍事基地建設・公害の視点から−」、国立市公民館近現代史講座、2016 年 3 月、国立市公民館

**（ｄ）高校生向け出張講義・模擬講義**

・「東アジアの現状と未来」東京都立八王子東高校講義、2018 年 2 月

・「これからの社会をいきてゆく皆さんへ―社会科学の道から」埼玉県立所沢高等学校進路講演会、2020 年 2 月

**（ｅ）その他（公的機関・各種団体・民間企業等における講演等）**

「日本の朝鮮半島に対する植民地支配の実態―地域社会の視点から―」日本弁護士連合会日韓部会連続講座、2020 年 10 月、オンライン開催

## 9. 一般的言論活動

・TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」特集「『三・一独立運動』から 100 年～その歴史的背景と現在における意味とは？」2019 年 3 月 1 日